



Architecture
Presentasion

architect
Osamu Mizoguchi

Bauhaus Project

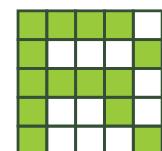


BAUHAUS.
The Bauhaus was a school of art and design founded in Germany
in 1919 by Walter Gropius. It was the first to combine art and
design, and its influence can still be seen today.



Under construction

建築家と建てる家を、
身近に、手軽に



R+house

※建築家住宅(建築士の資格を持つ独立した建築家により基本設計された住宅)
主要供給事業者9社における2017年度供給数
(株)矢野経済研究所調べ/2018年10月現在

2017年度
[建築家住宅]
供給戸数 全国
No.1*





担当建築家

溝口 修

アンダーコンストラクション@大阪

Osamu Mizoguchi

住宅を取り巻く環境、個人の価値観など様々な条件の中で、
家族が長い年月を過ごす場所ですので、家族の様々な思いを包み込む
「居心地の良い場所」であればと考えます。

Profile

1963年12月	大阪府生まれ
1981年3月	大阪市立中央高等学校 卒業
1986年1月	株式会社 ZOOMY 入社
1988年1月	株式会社ヘキサ 入社
1999年1月	アンダーコンストラクション 設立

家族のくつろぎとネコの喜びを空間が繋ぐ家

POINT①

“ちょうどいい” 距離感で、
家族の気配を感じることが出来る “くつろぎスペース”

POINT②

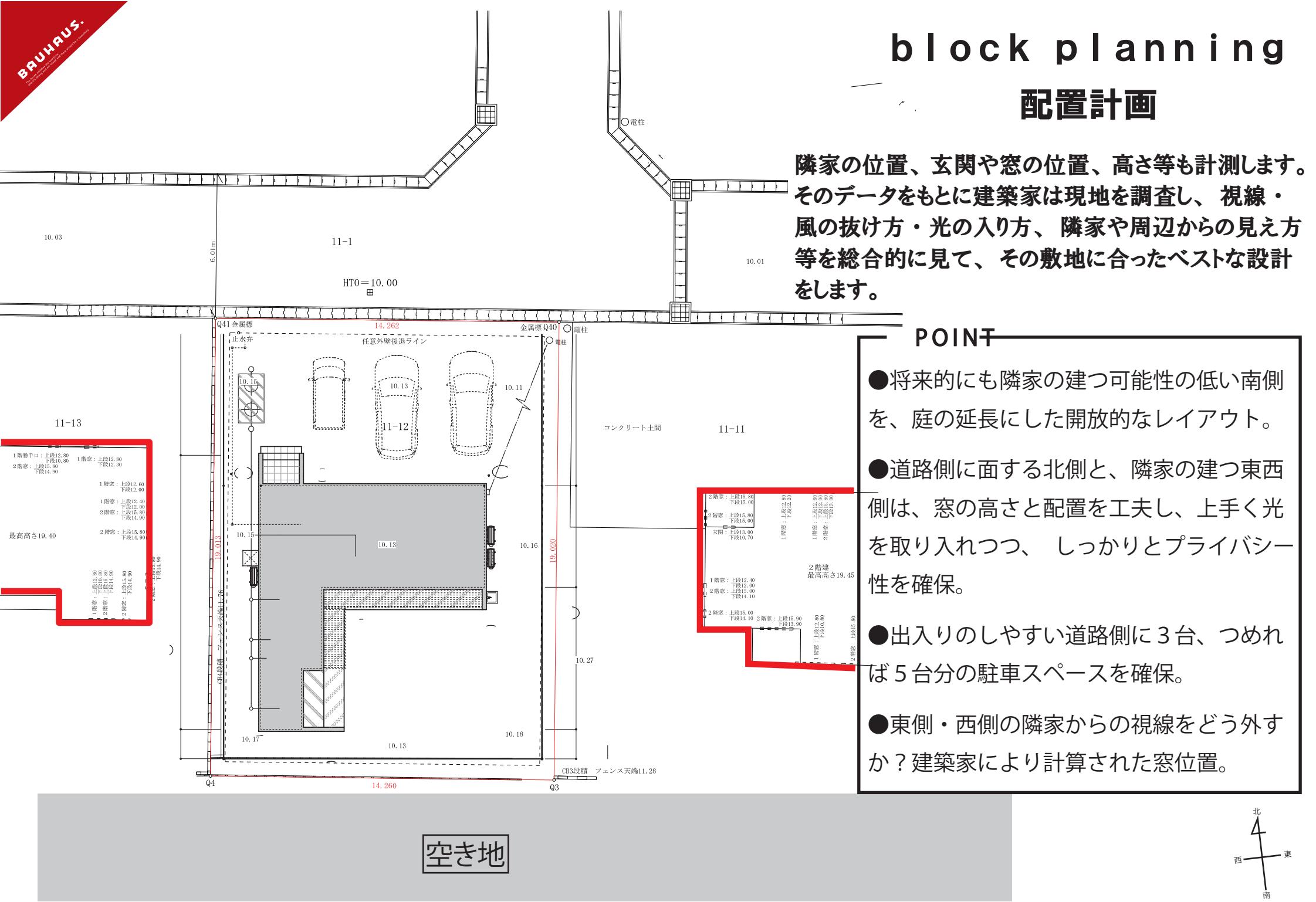
ママにも嬉しい、 キッチンの快適な家事動線

POINT③

外部からの視線を遮りながらも、
室内へ光をたくさん取り込むことが出来る空間設計

block planning

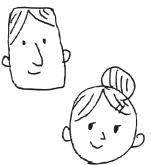
配置計画



1F



LDK



私たちにとって、家は休む場所。

リビングには開放感が欲しい。家族みんなが楽しく寛げる場所にしたいな。床でゴロゴロする感じも好きですね。ネコちゃんを2匹飼っているので、その子たちが自由に動き回ったり、日向ぼっこをしたりしている風景を眺めたりできればいいな。



この土地のメリットである、南側の開けた空間を生かしてリビングの南側に大きな窓と吹き抜けを設けました！午前中の柔らかな光が沢山リビングに入ってくるので、明るくて開放感のある場所になります。また、建物の西側の壁を利用して夏場の西日をカットできるよう設計しています。



僕はこもれる場所が欲しいなって思います。

完全に個室って感じじゃなくてもいいので、家族の気配を感じつつ……ひきこもる、みたいな。あと本や漫画も沢山あるので、共用スペースに置く場所があるといいなあ～



リビングの一角に『ヌック』のような空間を設けました。

小上がりにすることで、リビングと繋がりを持ちつつ引きこもることが出来る特別な空間です。

本や漫画もここに収納できるよう、大量に収納できる可動式の本棚を造作で配置しました。

また、本棚の反対側にはカウンターを設けました。ここでちょっとした作業をする事も可能です。

このスペースはご主人がこもるのはもちろん、お子様が遊んだり勉強したりする場所としても使えますよ！ネコちゃん用に景観の良いリビングの窓際にキャットウォークを設けたので、ここでゴロゴロしながらキャットウォークで寛ぐネコちゃんたちの様子も眺めて頂ければなと思います。

入り口は段になっているので、ここにちょっと腰かけて、ネコちゃんと一緒に日向ぼっこなんていかがですか？

1 F



2Fへ続くキャットウォーク



LDK

料理は主に私がしています。

キッチンは全体が見渡せるような感じがいいな。
ずっとキッチンで作業するタイプではないけど、コーヒーが好きなので、インスタントじゃないタイプのものを淹れて飲んだりしたいですね。



ダイニングは、なんでもできる大きめのテーブルが置けるようにしたいな。イメージでいうとファミレスみたいな感じ。ソファーはなくてもいいから、大きめのテーブルがLDKの中心の役割を果たしてくれればなど。



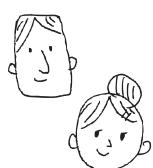
キッチンは、リビングとダイニング全体を見渡せる対面式にし、ネコちゃんの動きが分かりやすいようなキャットウォークの配置にしました。

お料理中やコーヒーを淹れながらでも、家族との会話やテレビを見て話題を共有することができますよ。また、キッチン・リビングまで玄関土間を設けているので、買い物から帰ってきて両手がふさがっている状態でも靴のままキッチンに抜けて荷物を置くことが出来ます。キッチンへの出入り口が2か所あるので、行き止まりのない回遊性のある空間になっていますよ。

両サイドに窓を設けているので風通しも良く、春秋は窓を開けても快適に過ごせます。

ダイニングは大きめのテーブルを置けるよう広めにスペースをとりました。

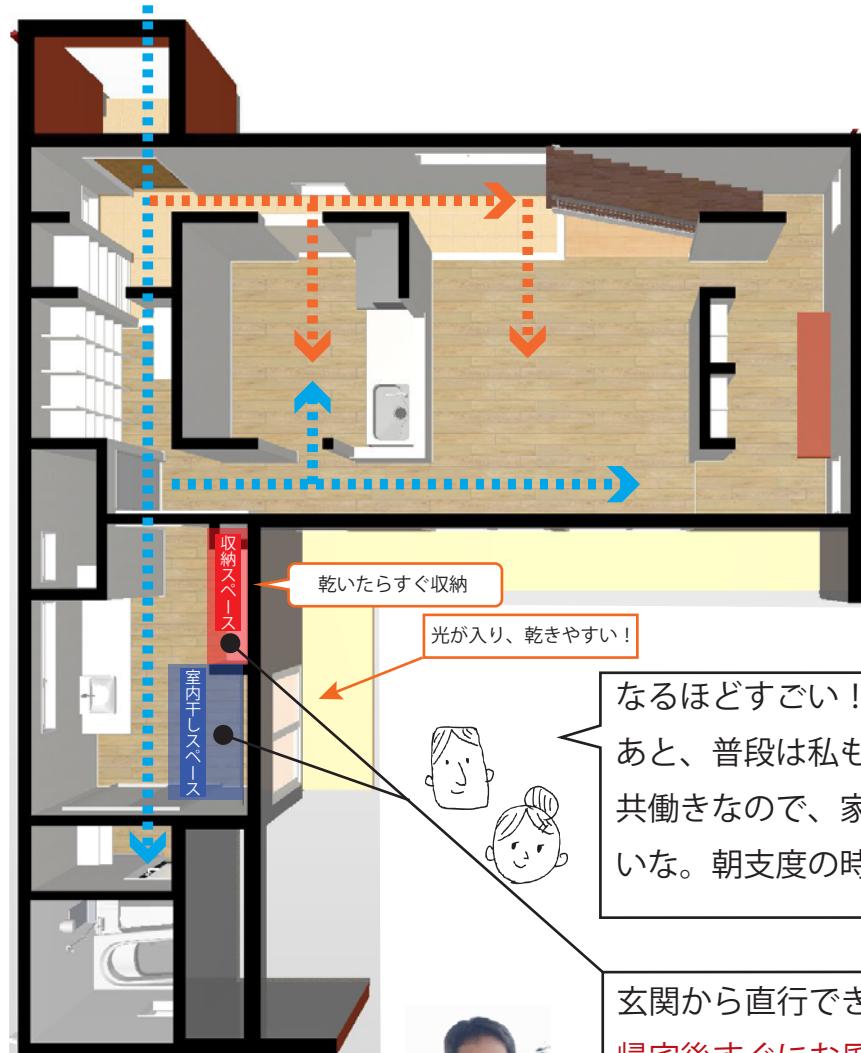
玄関十間から直接ダイニングにもトガれるので、アクヤスも良好です。



わあ～すごい！

ダイニングの横にキャットウォークもあるから、本当に家族みんなでくつろげる空間になりますね！窓からの眺めもいいし、のんびり過ごすことが出来そう！

1F



玄関/ランドリー



玄関入ってすぐ階段ではなく、子どもたちは一旦リビングを通ってから2階に上がるようになしたいな。
靴や外で使うものはあまりないから、玄関周りの収納はそこまでいらないかもだけど、土間収納いいなあとは思ってます。



玄関土間をリビングの方まで広げ、その先に階段を配置しました。帰宅後は、必ずリビングを通過することになるのでお子様の様子も確認出来て安心です。また、玄関土間を広めに設けることで、ネコちゃんのトイレをここに置いたり、将来増えるかもしれない外用の道具を置くスペースを確保することが出来ます。土間の反対側にはリビングの大きな窓から外の景色が見えるので、視線が抜けて広々とした空間に感じることが出来ますよ。

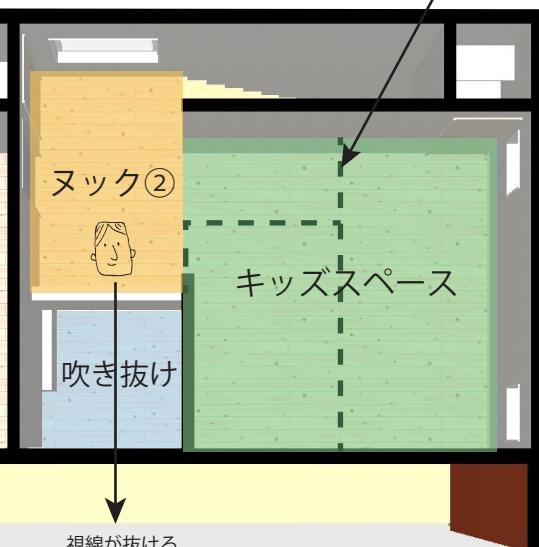
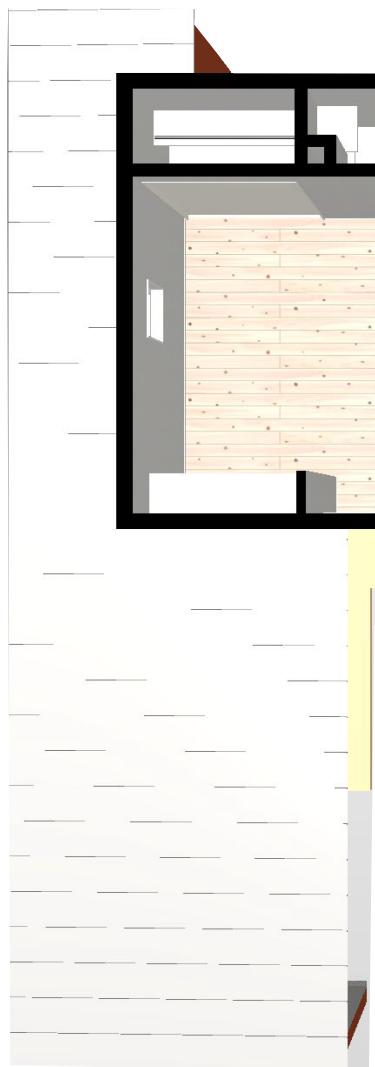


なるほどすごい！
あと、普段は私も主人も仕事から帰ったらすぐお風呂に入って部屋着で過ごします。
共働きなので、家の中に洗濯物を干すスペースが欲しいけど、リビングから見えないようにしたいな。朝支度の時間が重なるし子供も女の子が2人なので洗面スペースは広めにほしいですね。



玄関から直行できる場所にお風呂とランドリースペースを配置しました。
帰宅後すぐにお風呂に入れます。ランドリースペースは広めに確保し、普段着や部屋着を収納できるクローゼットを設けました。ここで乾いた洗濯物をそのままクローゼットに片付けることが出来るので、家事の時短になりますよ。室内干しでもよく乾くように、南東から日の光が当たるよう空間設計しています。

2F



将来、部屋を分ける事も可能



主寝室/子供部屋/ヌック 2

寝室はそこまで広くなくても良いかな。ただ、収納スペースは欲しいかも。

子どもが2人いるので、子供部屋は必要だな～。



寝室は必要最低限にして、収納と共用スペースとのバランスを見ながらゾーニングをしてみました。階段を上ってすぐのところに、ヌックのようなフリースペースを設けました。ここは共用スペースとして、イスと机を置いてもいいし、何も置かずゴロゴロする場所としても使うことが出来ますよ。腰壁の先には吹き抜けがあるので、視線も抜けて広がりを感じる事が出来ます。1階のリビングからこの吹き抜けへキャットウォークが繋がっているので、ネコちゃんもこのスペースに遊びに来ることが可能です。

また、お子様がまだ小さいので、子供部屋はあえて仕切らずに広々と使えるようにしています。しばらくはここで走り回って遊んだりすることもできますよ。

将来、それぞれの部屋が必要になった時は、壁で仕切ることが出来ます。

こちらの子供部屋スペースとフリースペースは、遮るものがないので吹き抜けの窓から光が入り、広々としたスペースになります。

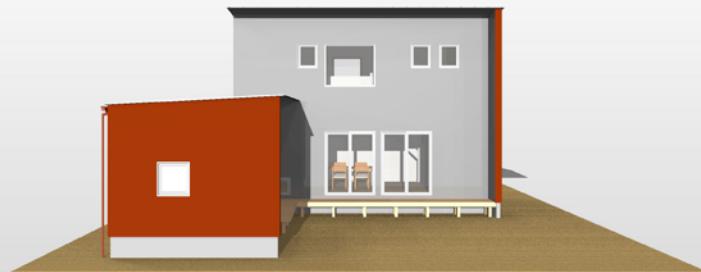


おお～！

ヌック②もいろいろな使い方を楽しめそう！窓からの眺めも良さそうだし、ここに小さなテーブルとイスを置いて書き物をしたり本を読んだり、ぼーっとしながらコーヒーを飲むのもいいなあ！

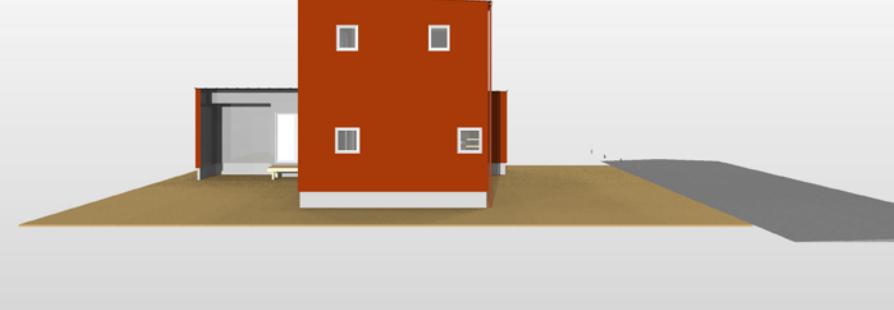
南

南側は開けていて、将来的にも隣家が建つ可能性が低いので窓を多めに設け、開放感を持たせている。



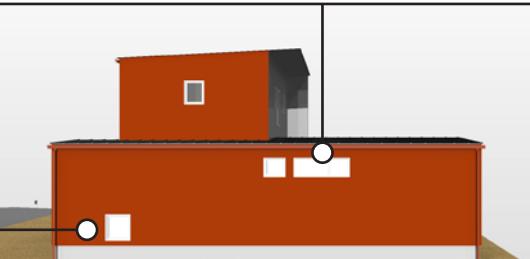
東

東側には隣家が建っている為、視線がバッティングしないように配慮された窓の配置。



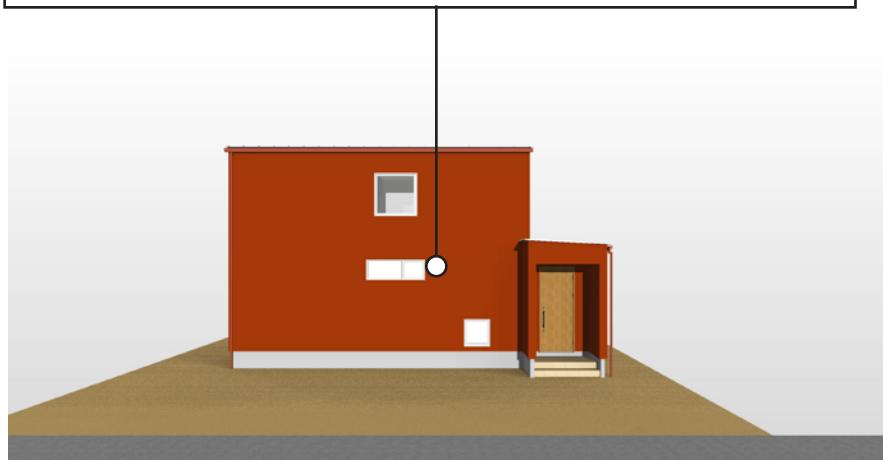
西

西側の窓は、脱衣スペースの明り取りにも使われているが、プライバシーに配慮した高めの位置で外からの視線を気にしないで良い。また、玄関の低い位置の窓からはネコちゃんが外をのぞけるような役割も。



北

北側は道路側に面しているので、比較的視線が集まる1Fは控えめな窓をプライバシーに配慮した位置に配置している。



上益城郡風配図

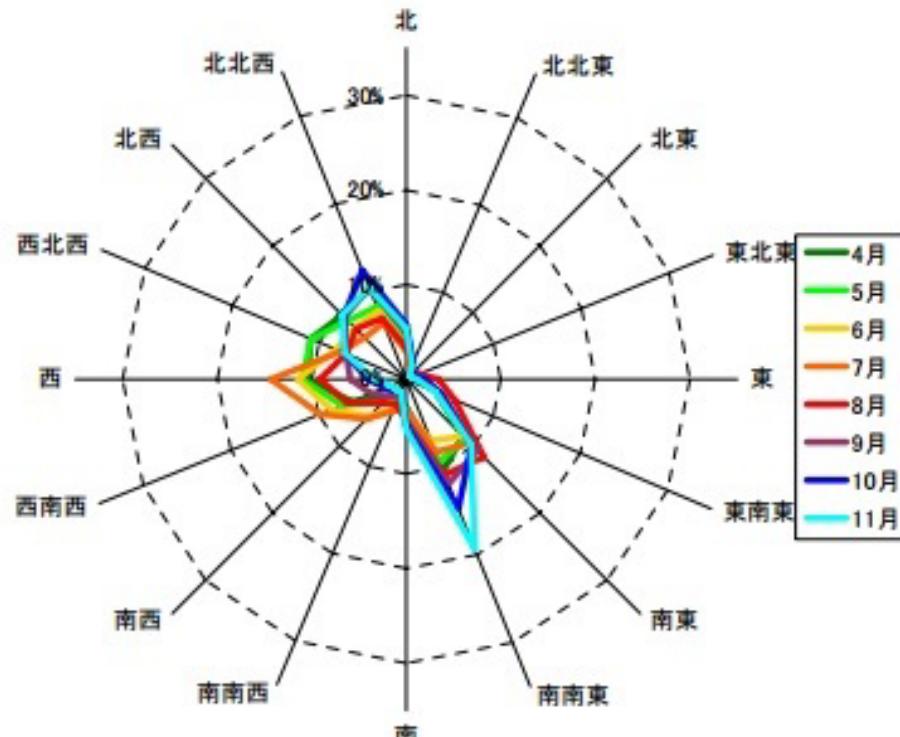


図4a 月別風配図(起居時)

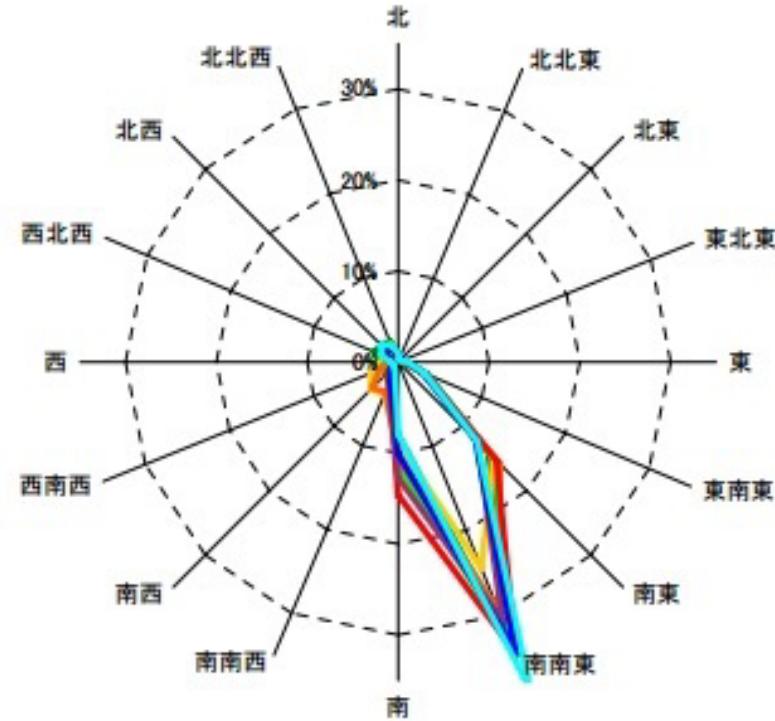


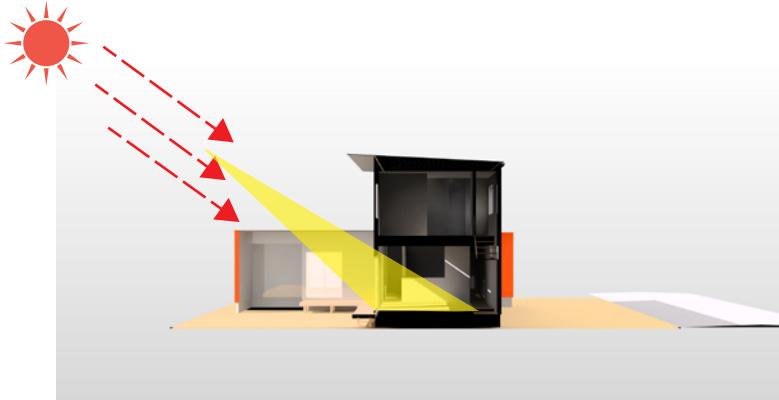
図4b 月別風配図(就寝時)

風配図とは、各方位の風向および風速の頻度を表した図です。

建築家は周辺の建物や環境を実際に目で見て、データと照らし合わせながら
風の向きや、入り方なども計算して「窓の配置」「窓の種類」「建物の配置」を決めていきます。

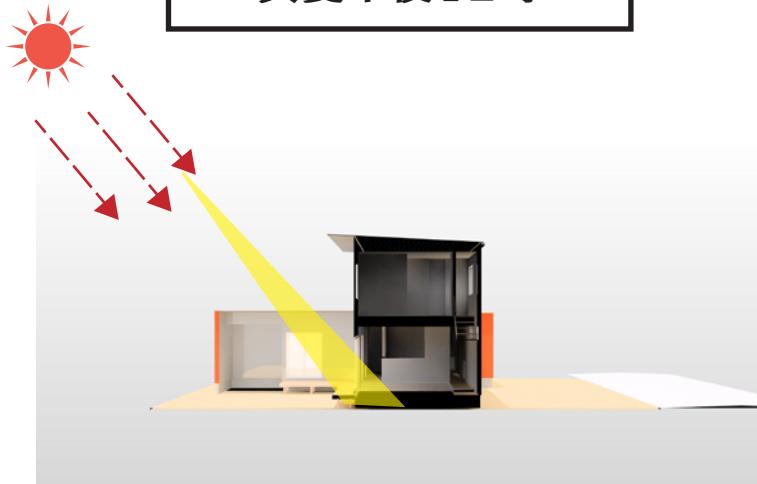
冬は部屋の奥まで光を取り込み暖かく、夏は窓から入る直射日光を避け、涼しく
自然の力を最大限活かしたパッシブ設計。

真冬午後12時

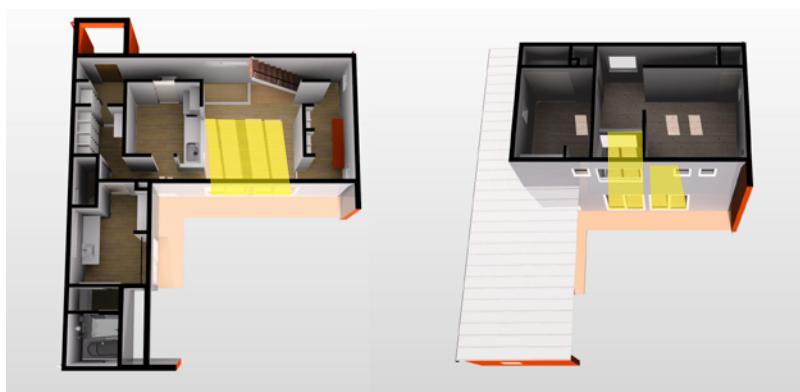


(冬至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が低くなる為、太陽が西に傾く頃、窓から部屋の奥まで暖かい光を取り込むことができる。

真夏午後12時



(夏至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が最も高くなる為、軒を出して日射を遮り、室温の上昇を抑える。



夏と冬では太陽の位置が異なります。建築家は季節ごとに変わる太陽の動きも熟知した上で設計します。